

6日 木曜

出エジプト

13:11 主が、あなたとあなたの先祖たちに誓われたとおりに、あなたをカナン人の地に導き、そこをあなたに賜わるとき、

13:12 すべて最初に生まれる者を、主のものとしてささげなさい。あなたの家畜から生まれる初子もみな、雄は主のものである。

13:13 ただし、ろばの初子はみな、羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたの子もたちのうち、男の初子はみな、贖わなければならない。

13:14 後になってあなたの子があなたに尋ねて、『これは、どういうことですか。』と言うときは、彼に言いなさい。『主は力強い御手によって、私たちを奴隷の家、エジプトから連れ出された。』

13:15 パロが私たちを、なかなか行かせなかったとき、主はエジプトの地の初子を、人の初子をはじめ家畜の初子に至るまで、みな殺された。それで、私は初めに生まれる雄をみな、いけにえとして、主にささげ、私の子どもたちの初子をみな、私は贖うのだ。』

13:16 これを手の上のしるしとし、また、あなたの額の上の記章としなさい。それは主が力強い御手によって、私たちをエジプトから連れ出されたからである。』

13:17 さて、パロがこの民を行かせたとき、神は、彼らを近道であるペリシテ人の国の道には導かれなかった。神はこう言われた。「民が戦いを見て、心が変わり、エジプトに引き返すといけなない。」

13:18 それで神はこの民を葦の海に沿う荒野の道に回らせた。イスラエル人は編隊を組み、



エジプトの国から離れた。

13:19 モーセはヨセフの遺骸を携えて来た。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない。」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせたからである。

13:20 こうして彼らはスコテから出て行き、荒野の端にあるエタムに宿営した。

13:21 主は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。

13:22 昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。

神様がエジプトの初子を打たれたことは、主の救いのハイライトです。それを後々の世代に伝える必要があります。そのことを単にことばだけでなく、「どういうことですか。」と問うほどに興味を持たせるのは神様の知恵です。視覚教材は重要です。

現代も与えられている技術が機器でそれを工夫することは大切です。しかし単に先端技術を使うことが目的ではなく、そこに表されている信仰の意味が大切であり、また聖霊が働いてくださることが重要です。

主は火の柱、雲の柱で臨在を表して、民を共におられることを明らかにされました。主が共におられることが勝利なのです。私たちが常に主がおられることを意識しましょう。主に話し、主に聞き、主に従いましょう。また主が共にいたく下さるように、主を主としてあがめましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

